

名家連ニュース

令和3年3月1日(月)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052) 846-5576 NO. 787号

連続講座 精神疾患の理解と対応 2 第9回

本間貴宣さんによる連続講座が、2/24(水)総合社会福祉会館7階大会議室で開催されました。今回はNさん(男性)のリカバリーストーリーを聴きました。参加者は47名です。次回3/16は最終回です。

Nさんのリカバリーストーリー：

小さいときは、落ち着かない子、片付けできない子、時間を守れない子だったが、大学に入学するまでは特に問題がなかった。勉強は好きだったが、他人との付き合いは苦手だった。

初めて一人暮らしを始めたが、自堕落に過ごしていた。午後3時頃起きて授業を欠席し、夜寝られない、を繰り返して、退学して引きこもった。いわゆるニートの状態が数年続いた。やがて、学習塾の先生やコンビニで住み込みのアルバイトをした。再び塾の先生をしていた時、夏休みの特別講習の準備で疲れていたせいか、次の日、仕事が怖くなって逃げた。市内を3週間ぶらぶらした。親に見つかり、クリニックを受診した。

しばらくは、家で過ごしていたが、医師の勧めで、デイケアに行った。最初は、なじめなかったが、やがて、ソフトボールをするために、デイケアに行くようになった。子供会でソフトをやっていたので、仲間から認められたのがその理由だと思う。医師から働くことを勧められた。どれも長くは続かなかったが、中にはやり切った感があるものもあった。医師から作業所を作るから手伝ってくれと言われ、いくつか新しい仕事の立ち上げを手伝い、ケーキ屋のスタッフとして働くようになった。

スタッフになると仲間と立場が変わるので躊躇したが、かといって一般就労に戻るのも嫌だったので、仲間と一緒にいる方を選んだ。現在は、別の組織で、デイサービス型(II型)地域活動支援センターの施設長をしている。

本間さんの質問(Q)とその答え(A)：

Q：自分の人生にタイトルをつけると？—A：「塞翁が馬」、悪い方に考えず良い方に考える。

Q：なぜ、いろんな挑戦ができた？—A：従順だったから。

Q：目的がないとはどういう状態？—A：大学に入学して一人暮らしを始めたら、人付き合いがないので何もなくなった。生きる意味を見出すと、自信がつく。そこで、みんなと助け合うことを目的とした。

Q：病気の状態をサラリと話すのは何故？—A：自分よりすごく苦しんでいる人を知っているから。

Nさんが選んだ参加者の感想：

ソフトボールできてよかったね。

参加者の質問(Q)とその答え(A)：

Q：薬との付き合い方？—A：服薬に関しては従順ではなかった。薬を飲まず、調子を崩したこともある。4,5年前に転院して、医師の同意を得て薬をやめた。実はここ1年、病院通いもさぼっている。失敗を糧にしつつ、薬なし生活をエンジョイしている。 /Q：自分の良いところはどうしたら見つけられるか—A：苦手な点はわかる。そちらに目を向けるといろいろな問題が生じる。デイケアで、良い方に目を向けようと習った。「片付けできないけどまだ生きてるね」というように。 /Q：片付けできないという弱点は家ではどう補っているのか？—A：すぐに謝るようにしている。妻も片づけは好きでない。他人の良い点を見つけれることが大事だと思う。 Q：どうしたら従順になれるか？—A：反抗できるのは羨ましい。納得したいがための反抗だと思う。納得してもらえよう、無理しない範囲で工夫する。

(講座内容紹介：担当理事/広瀬)